

2012年9月20日

## 日本民間放送連盟賞で最優秀賞

朝日放送は2012年日本民間放送連盟賞で、CM部門（ラジオ）で最優秀賞、テレビ報道番組・放送と公共性の2部門で優秀賞を受賞しました。各部門の詳細は以下の通りです。

<CM部門>ラジオCM第1種（20秒以内）

### 最優秀 二階堂酒造 大分むぎ焼酎二階堂/好きな音 篇（20秒）

プロデューサー 野本友恵 プランナー 北田 淳

“トク トク トク トク……”、焼酎がボトルから流れ出る、あの音。なぜか、友人と話している最中に、そんな音が聞こえてくる。「えっ、なに、なに～？」と不思議がる友人に、本人はケータイを取り出し、「はい、もしもし～」と話し始める。着信音にしてしまうほど、好きな味、好きな音なのだ。効果的に“音”を使いながら、商品の魅力も伝え、さらにハッピーな気持ちにさせてくれる、ラジオCMの見本のような作品。

<テレビ報道番組部門>

### 優 秀 復興の狭間で～神戸 まちづくりの教訓～

プロデューサー 矢島大介 ディレクター 西村美智子 撮影 利満正三

阪神大震災の復興のために、巨額の税金が神戸市長田区の再開発地区に投じられた。しかし、震災から17年たった今、復興のシンボルとして建てられた高層ビル内の中はシャッターが閉まり、ビルに開業した店主は多額の借金に苦しめられている。一方、東日本大震災で被災した気仙沼でも、住民の声を反映しないまま復興の計画が進んでいく。「復興災害」が日本中どこでも起こり得る問題であることを伝え、復興の街づくりの在り方を問いかけている。

<放送と公共性>

### 優 秀 「古文書が語る巨大津波」シリーズと一連の報道活動

実施責任者 木戸崇之

先人が遺した貴重な教訓である古文書の記述と地質学を融合することで、過去の地震の実像をあぶり出す。朝日放送で東日本大震災直後のニュース企画からスタートした一連の番組は、「地質考古学」という新しい学問分野に光を当て、日本の歴史が大災害とともにあることを訴えた。地元大阪の歴史博物館での特別展示に番組提供した。制作者の視点が明快で、あまり知られていない事例をアニメやCGでわかりやすく伝えており、人々に訴える力をもつキャンペーンと評価された。あいまいな点を正直に視聴者に開陳していることも高評価につながった。